

第 121 回宇宙政策委員会 議事要旨

1. 日時：令和 8 年 1 月 21 日（水） 15：00－17：00

2. 場所：中央合同庁舎 4 号館 共用第 3 特別会議室

3. 出席者：

（1）委員

後藤委員長、常田委員長代理、青木委員、片岡委員、櫻井委員、白坂委員、松尾委員

（2）内閣府

内閣府宇宙開発戦略推進事務局：

風木事務局長、渡邊審議官、猪俣参事官、三上参事官

（3）オブザーバー

宇宙航空研究開発機構（JAXA）：山川理事長

（4）関係省庁等

内閣官房内閣衛星情報センター：室伏管理部長

総務省国際戦略局：柴山官房審議官（国際戦略局担当）

文部科学省研究開発局：坂本局長

農林水産省技術会議事務局：東野研究総務官

経済産業省製造産業局宇宙産業課：高濱課長

国土交通省総合政策局技術政策課技術開発推進室：阿部室長

環境省地球環境局：関谷局長

防衛省大臣官房：吉野サイバーセキュリティ・情報化審議官

宇宙航空研究開発機構（JAXA）：奥野理事

宇宙航空研究開発機構（JAXA）：石田宇宙戦略基金プログラムディレクター

4. 議事要旨：

（1）令和 8 年度宇宙関係予算案等について

各省より資料 1-1～1-9 に基づき説明を実施。

委員からは以下のような意見があった。

- 宇宙関係予算が 1 兆円を超え、前年度比 12%増加したことは喜ばしい反面、インフレにより衛星等の値段は高騰していると聞く。実質的に予算が増加しているのか、当初の計画に必要な金額が調達できているかは注視する必要がある。また、その執行にあたり、出口となる利用官庁との連携も重要である。
- 高市総理から、補正予算をなくして当初予算に一本化するといった話が出ている。シーリングがある中で、令和 9 年度以降の予算確保への影響も注視していきたい。

- 世界で衛星コンステレーションの急速な進展が目立つ中、日本もスピード感を持って衛星コンステレーションの構築を進めなければならない。
- 国際秩序を作る能力を日本は持っており、国際宇宙探査への協力・貢献など、日本が任された役割をしっかりと果たし、世界の信頼を得られる取組をお願いしたい。
- 「人工衛星」及び「ロケットの部品」が経済安全保障推進法上の特定重要物資に指定され、サプライチェーン強靱化が図られるのは良いことだが、衛星の打上げ増加、国内での打上げ高頻度化など、社会実装につながるよう取組を推進していく必要がある。
- 総務省の令和7年度補正予算で措置された、「自律性確保に向けた低軌道衛星インフラ整備事業（1,500億円）」について、経済安保やサプライチェーンの議論がある中で、リプレイス時には完全国産衛星を調達する等を検討すべきである。
- JAXAについて、令和8年度予算案では反転しているとの旨だが、足元での役割拡大や今後の更なる拡大を考慮すると、最先端の研究開発を続けていくには足りず、更なる予算措置が必要。

（２）宇宙戦略基金の進捗状況等について

JAXA 石田宇宙戦略基金プログラムディレクターおよび事務局より資料 2-1・2-2 に基づき説明を実施。

委員からは以下のような意見があった。

- 民間事業者の技術基盤が弱く、技術力を持つ JAXA との連携をより密接にしたいという声もあるが、JAXA が審査する側にいることで、利益相反の観点から事業者側と意思疎通できていない印象。
JAXA と連携することで、より良い成果物が生まれるテーマもある。基金の成果最大化のために必要な、JAXA のマネジメントの在り方について検討・提示いただきたい。
- 政策資源が限られる中、勝ち筋への投資が大事。加速していく事業、中止する事業などメリハリをつけた支援が必要。

- 宇宙関連の技術開発はフロンティア領域であり、一般社会との距離があるため、理解されにくい部分もある。宇宙政策委員会が社会との重要な接点となっている。JAXA が資金配分機関としての役割も上手くやっていくために、大所高所の方針のみならず、今後、場合によっては具体についても宇宙政策委員会で議論していくことも適宜必要になるだろう。
- 宇宙戦略基金は日本の将来のためにも成功させなければならない事業である。約 200 程度と想定される採択事業者に対して今後、各技術開発テーマの成果・進捗に応じてスクラップ＆ビルドしていき、「狭く深く」支援をしていくことが重要。加速・減速・中止の目利き力が問われている中、ステアリングボード、JAXA、関係府省、宇宙政策委員会一丸となって取り組んでまいりたい。

(3) H3 ロケット 8 号機打上げ失敗の調査状況について

文部科学省および JAXA より資料 3 に基づき説明を実施。

委員からは以下のような意見があった。

- H3 ロケットは、我が国の宇宙活動の自立性確保と国際競争力強化のために重要な基幹ロケットである。今回の打上げ失敗の原因究明を、確実かつ速やかに進めていただき、打上げを待つ「みちびき 7 号機」については、可能な限り早期に、着実に打ち上がることを願っている。

(4) 航空・宇宙ワーキンググループについて

事務局より資料 4 に基づき説明を実施。

委員からは以下のような意見があった。

- 青木委員、白坂委員、松尾委員、石田さんにおかれては、本ワーキンググループの構成員にご就任されたとのことで、よろしくお願いしたい。本ワーキンググループで検討されるテーマはいずれも重要事項である。宇宙政策委員会でも議論して、官民連携ロードマップ（案）に反映させていきたい。

以上